

報道関係者 各位

放送批評懇談会

**発表！2020年1月度ギャラクシー賞月間賞**

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで57年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年を受賞作を決定いたします。6月初旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース (<https://houkon.jp/galaxy-database/>)」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

放送批評懇談会

ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS

◆お問い合わせ先

放送批評懇談会／担当：福島・齋藤

〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel : 03-5379-5521 Fax : 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <https://houkon.jp/>

放送批評懇談会



2020年1月度ギャラクシー賞月間賞

スペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」

12月30日放送 21:00～22:13 日本放送協会

「血のクッキー」の印象が強烈だ。原作にした芥川の『上海遊記』にこの話はなく、これは『湖南の扇』に描かれた薄幸の美女の話とうまく融合させていて、脚本の渡辺あやの能力の高さによるところが大きい。そのセンスが上海の街並みや処刑場や水郷の超精細映像のなかで光り、独特の世界観をつくることに成功している。

フジテレビ開局60周年特別企画「教場」

1月4、5日放送 21:00～23:10 (4日) 21:00～23:24 (5日) フジテレビジョン

警察学校を舞台にした大ヒットミステリーを初映像化。50がらみ、白髪、隻眼の冷徹なカリスマ教官。多くの俳優がやりたかったであろうこの役を47歳木村拓哉が抜群の緊張感で生き生きと立ち上げた。鬼指導で覚醒していく若者たちの青春群像劇も見応えがあり、絶対服従、連帯責任の描写で今の時代に一石を投じた覚悟も上等。

NHKスペシャル「認知症の第一人者が認知症になった」

1月11日放送 21:00～21:49 日本放送協会

日本の認知症医療を確立した医師自身が認知症となり、自らの日常の姿を見せることで認知症とは何かを伝えたいと撮影に応じた。自身が提唱したデイケアサービスを経験して不満を抱くなど、患者と研究者としての葛藤が描かれる。認知症になると世界はどう見えるのか、ケアやサポートはどうすれば良いのか、当事者目線で認知症医療の課題を伝えた。

テレメンタリー2020「還暦で歩む医師の道」

1月26日放送 4:30～5:00 青森朝日放送

官僚から転身して60歳で医師免許を取得、現在十和田市の病院に内科医として勤務している男性の生き方が興味深い。訪問診療にこだわって奮闘する医師は高齢の患者に優しく接する。その人柄にも共感してしまう。地域の医師不足や高齢化がすすむ地域医療の課題を医師の日常を通してさりげなく浮き彫りにした。